

「環境デザインにおける計画と芸術の関係に関する研究」
- 大阪の風土と造形 -

研究年度・期間：平成8年度～平成10年度

平成8年度

研究代表者：稲田 尚之
(芸術文化研究科 教授)

研究ディレクター：清水 正之
(環境計画学科 教授)

共同研究者：荒木 正典
(環境計画学科 教授)
ハーヴィA. シャピロ
(環境計画学科 教授)
松久 喜樹
(環境計画学科 助教授)
吉原 卓男
(環境計画学科 助教授)
若生 謙二
(環境計画学科 助教授)
柿沼 祐太
(環境計画学科 講師)
篠沢 健太
(環境計画学科 講師)
下休場千秋
(環境計画学科 講師)
福原 成雄
(環境計画学科 講師)
研究補助者：勝手美千子
(環境計画学科 副手)
三原 直人
(環境計画学科 副手)
辻井喜代美
(環境計画学科 副手)

平成9年度

研究代表者：稲田 尚之
(芸術文化研究科 教授)

研究ディレクター：清水 正之
(環境計画学科 教授)

共同研究者：荒木 正典
(環境計画学科 教授)
ハーヴィA. シャピロ
(環境計画学科 教授)
松久 喜樹
(環境計画学科 助教授)
吉原 卓男
(環境計画学科 助教授)
若生 謙二
(環境計画学科 助教授)
柿沼 祐太
(環境計画学科 講師)
篠沢 健太
(環境計画学科 講師)
下休場千秋
(環境計画学科 講師)
福原 成雄
(環境計画学科 講師)
研究補助者：勝手美千子
(環境計画学科 副手)
辻井喜代美
(環境計画学科 副手)

平成10年度

研究代表者：清水 正之
(環境計画学科 教授)

研究ディレクター：清水 正之
(環境計画学科 教授)

共同研究者：荒木 正典
(環境計画学科 教授)
ハーヴィA. シャピロ
(環境計画学科 教授)
松久 喜樹
(環境計画学科 助教授)
吉原 卓男
(環境計画学科 教授)
若生 謙二
(環境計画学科 助教授)
柿沼 祐太
(環境計画学科 講師)
篠沢 健太
(環境計画学科 講師)
下休場千秋
(環境計画学科 講師)
福原 成雄
(環境計画学科 講師)
研究補助者：辻井喜代美
(環境計画学科 副手)

研究経過の概要

この研究の目的は、大阪における環境デザインを風土との関係からとらえ、評価を加えようとするものである。それらの評価軸を多角的にとらえるため、研究員の専門領域にもとづく3つの研究班を組織した。各研究班の視点は、A班：享楽空間(社会文化軸)、B班：都市空間と場の設定(空間軸)、C班：自然環境と都市(自然軸)であり、これらの軸をもとに、大阪

の地域特性の分析と考察を行った。

A 班：大阪における風土と造形の特性に関して、非日常的な享楽空間、とりわけ行楽の空間に焦点を絞り研究を進めた。行楽空間の魅力は何か。近世・近代において大阪の人々が自然と接する行楽空間の特性について、社会文化的背景をふまえて分析した。摂津・河内・浪速名所図絵等に含まれる名所旧跡や主要な庭園についての成立・立地条件とそれらの変遷、また近代における公園や遊園地の発展過程に関して、文献資料や現地調査にもとづく考察を行った。

B 班：大阪の都市空間と場の変遷を通して、風土とその造形の関わりについての研究を行った。研究対象地区としては、旧三郷地区及び上町台地の四天王寺・庚申堂、生玉・高津等の界隈をとりあげ、その土地特性とそこで展開される人間生活の歴史的営為が、都市空間にどのような空間的影響を及ぼしたのか、古地図、文献、地形図、図版、写真画像などを通じてその変遷を考察した。

C 班：大阪の都市形成を自然史の観点からとらえるため、海からの自然環境の変化に注目した。古代から現代にいたる沖積平野の自然特性を把握するために、「デルタからみた発達史」という視点から研究を進めた。古代における自然環境の変化を大阪盆地の形成に絞り、10 万分の 1 の沖積層基底等深線図の作成を試みた。立地構造に防災上の脆さを宿命としてもつ都市の中での人間と自然の関わりについて見直し、自然史の流れの中で地域の変容をとらえた。

研究効果について

それぞれの研究班と全体の研究成果は次の通りである。

A 班：行楽空間の変遷と特性を時間軸と空間軸の上で把握した。大阪近郊の遊園地形成史を中心とする年表ならびに、摂津・河内・浪速名所図絵等に表された、公園や園庭を含む名所旧跡の分布図を作成した（図 - 1、表 - 1）。さらに、大阪地域の土地利用や地形とそれら行楽空間との対応関係を明らかにするために、景観構成要素を主とする地理情報データベースを作成した。分析の結果、自然と文化が多様性に富み、希少価値の高い環境条件を備えた場所が魅力ある行楽空間になり得ることが確認できた。

B 班：大阪の都市空間と場の変遷を、それぞれの界隈の土地特性と人間生活の歴史的営為と空間的特性を通して把握し理解を深めるため、データベースの作成をおこなった。データベースは、CG を使った 3D 地形モデル化、航空写真の分析、収集した歴史文献資料の適正化、現地調査の評価、及びそれらを空間解析してモデル化した図によって構築されており、それぞれをコンピュータ上でリンクする事により詳細の把握を可能にした。

C 班：大阪の立地構造の変遷を図版と文献資料をもとに考察した。自然史の概要に関する年表を作成し、関連する図版からデルタの発達を視覚的にとらえた。古代の海面レベルの変化にみる大阪の立地条件は現代とは大きく異なる。環境変化に伴う海面上昇の可能性が指摘されているが、デルタ形成が人間の開発行為とその影響により、複雑化していった過程を明らか

にした。

これらの各班の研究成果について、時間軸と地理上のスケールを設定し、総合化したデータベースの作成を試みている。

研究の反省

平成10年度の研究課題は、今年度までになされた成果を総合化して生活空間の画像データベースを作成し、評価軸をもとに大阪の風土と造形の関わりを考察し、計画と芸術の関係についての研究をまとめることである。各班でそれぞれの視点での研究課題の分析と情報の共有化の試みは、ある程度成功したと思われるが、各班の成果を相互に討議し、評価軸を統合化することの困難さを痛感した。それは各々の視点による価値の共有化の難しさにあるともいえよう。しかし、それらは研究成果でもあるデータベースの構築のプロセスでの、具体的な成果を前にした討議により、克服されつつある。今後はデータベースをもとにした共同討議の機会を濃密に行うことが求められる。

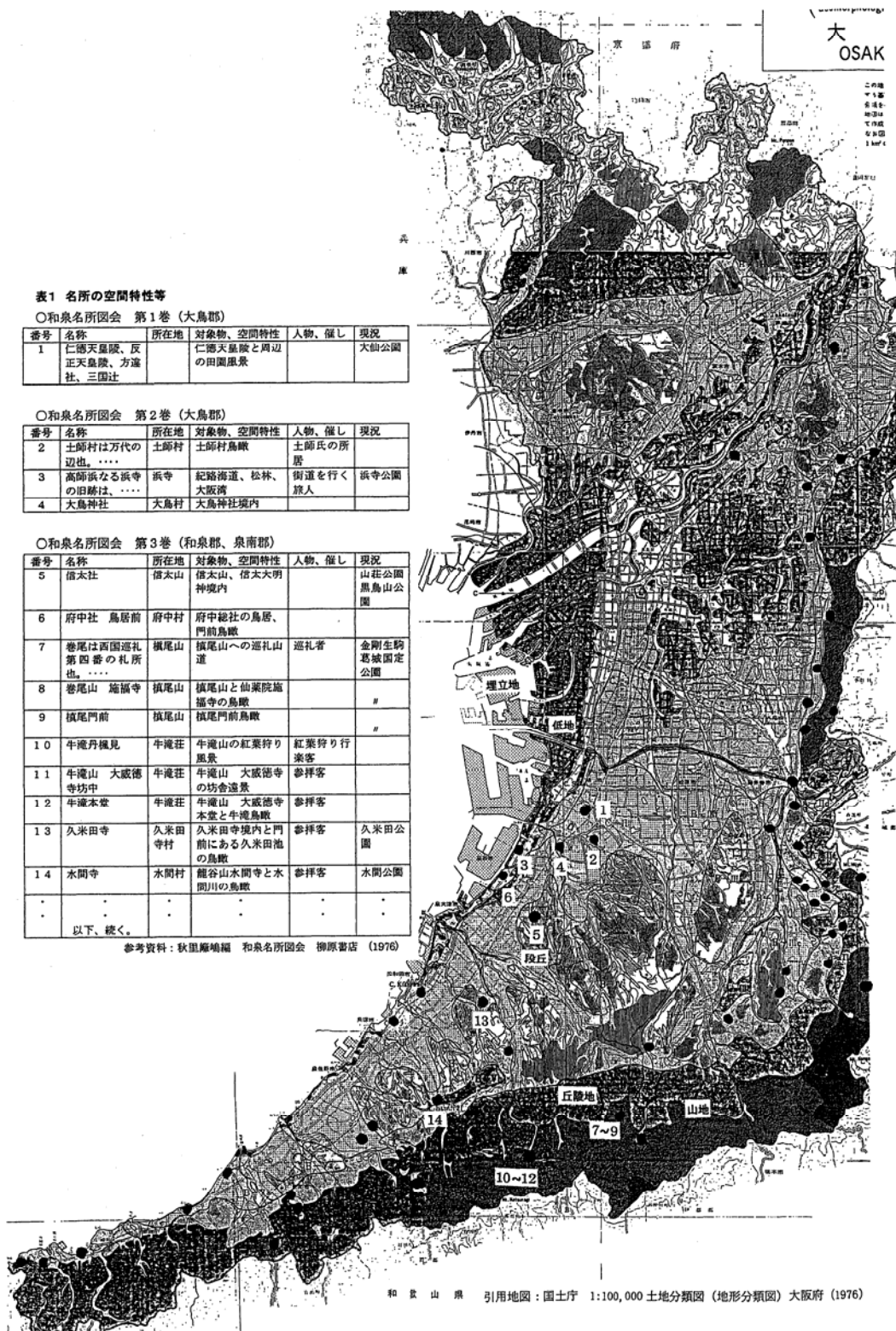


図1 特定された名所の位置 (和泉, 河内名所図会より)